

○福井県勝山市

ふるさと創生とESD

福井県勝山市長 山岸 正裕

1、勝山市の概要

勝山市は、白山山系を源流とする県下最大河川九頭竜川の河岸段丘に市街地を形成する歴史と自然豊かな小都市である。

昭和63年夏、勝山市北谷町で肉食恐竜の歯が発見されて以来、平成元年から現地において本格的な発掘調査を開始し、これまで日本で発見された新種の恐竜化石7種類のうち5種類が勝山市で発見されている。この発掘・研究・展示のために福井県は、平成12年に勝山市に県立恐竜博物館を建設し、現在、年間90万人以上の入館者でにぎわっている。



このほか、勝山市には、奈良・平安時代を経て中世に強大な宗教都市として栄えた白山平泉寺を紹介する「歴史探遊館まほろば」、明治の近代化産業を担い大正・昭和に日本の繊維織物の一大産地を築いた歴史を今に伝える「はたや記念館ゆめおーれ勝山」、さらには、越前勝山藩の頃から300年以上続いてきた伝統行事「勝山左義長まつり」など、歴史が刻んできた記憶を、目に見える形で残してきている。数年前には、アメリカの雑誌フォーブスで、世界で9番目にクリーンな町としても紹介されている。

2、ふるさと創生への思い

平成12年12月に市長に就任し、「行政がすべての施策の主体になるのではなく、地域住民と一体となったまちづくりを推進したい」という思いを込めた「あなたと一緒に21世紀の勝山をつくります」というキャッチフレーズとともに、「ふるさとルネッサンス」を理念に掲げ、勝山市を誇りと活力に満ちたまちに復興・再生する具体的事業に取り組んできた。勝山市の復興・再生には、21世紀の新しい価値観に基づいた豊かさを追求すべきである。勝山市独自の自然や風土、景観・環境、歴史や伝統、この地に培われてきた特有の文化とコミュニティによって成り立つ地域の力を地域住民自身が再発見することによって、勝山市の個性と魅力を自信を持って表現し、地域を誇りに思う気持ちにつなげたいと考えている。

3、ふるさと創生を目指した取り組み

(1) エコミュージアムとして

勝山市全体を丸ごと博物館と捉え、住民が学芸員として地域のさまざまな遺産を発掘し、それを磨いてアピールする仕組みを構築した。事業の具体化のために、市内 10 地区にまちづくり団体を設立し、「勝山市エコミュージアム協議会」を組織した。「わがまち助成事業」がスタート、初年度の平成 14 年度から

16 年度までの 3 年間は、まちづくり団体にそれぞれ年間 100 万円の事業補助をつけた「わがまちげんき発掘事業」を始めた。各地区では、地域住民が遺産を調査・再発見するために、遺産マップを作成したり遺産めぐりウォーキングなどを行ったり、地域の遺産を地域の宝として再認識できた。



最初の 3 年間の取組みは 30 事業に及ぶ。カタクリの花を鑑賞できる登山コースの整備・管理、炭焼き窯での木炭生産の復活、冬の保存食「鯖の熟なれ鮓し」の復活と販売、エゴマの栽培復活とエゴマ油の生産など、現在も取り組まれている事業が多々ある。

(2) エコ環境都市実現を目指して

勝山の魅力向上の柱として「エコ環境都市」実現を目指し、学校で行ってきた環境教育活動をベースに勝山スクールエコプロジェクトを始動、子どもと地域が一体となった取り組みに発展させてきた。例として、市内に残る貴重な動植物の保全活動としてバイカモの保全活動や貴重な植物が群生している湿地のヨシ刈りなどが挙げられる。子どもたちと関係機関や地域住民が連携し、活動を継続している。

平成 24 年の 5 月に勝山市で第 20 回環境自治体会議を開催した。この大会では、子どもたちが活動発表を行い、大きな反響を呼んだ。阿部 治先生のご講演の中で、ESD についてご教授いただき、私自身もその必要性を実感し、勝山市のそれまでの活動をさらに充実させるべく、ESD に取り組むこととした。

ESD の取り組み推進に向けて、平成 26 年 4 月に市内全小中学校のユネスコスクールに登録が承認された。ESD の考え方のもと、環境教育活動を基軸に、福祉や観光 PR、企業との商品開発など様々な活動に発展してきて

いる。



4、これまでの手ごたえと今後の展望

3 年前から中学生、高校生と市長と語る会を開催し、中学生や高校生と話をする中で、これまでの ESD の成果を実感している。その席で発せられる意見や提案内容は極めてレベルが高く、目を見張るものがある。観光や産業振興などのほか、勝山の魅力づくりについて「中学生、高校生



がここまで考えているのか」と度々感心してきた。この姿は、日々の5教科を中心とした学習とともに、それをさらに ESD の理念の中で様々な活動と結びつけて取り組んだり、正解のない課題に対して体験を通して学んでいたりする証だろうと受け止めている。

勝山市は、平成 21 年に「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」として認定を受けた。地域にあるものすべてを、自分の地域のことを知るために必要な、これ以上ない教材として、子どもたちも市民も積極的に学んでいる。

今後は、2015 年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された SDGs（持続可能な開発目標）も行政の目指すべき指針として市民に投げかけ、市民とともに活動していきたいと考えている。そのためにも ESD の取り組みをさらに発展させていきたい。

5、結びに

私たちは、遙かかなたの祖先から命を引き継いで今を生きている。その命をつないでいくために必要な、あらゆる環境を持続し発展させていくことが、今を生きている私たちに託されている。そして、次世代にしっかり引き継いでいかなければならない。

「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を ESD によって次世代にしっかりと継承していくことが私の使命である。

